



タイタス・アンドロニカス

# Titus Andronicus

©高嶋ちぐさ

現代にも通ずる復讐の連鎖。

歴史は繰り返す。一度目は悲劇として、二度目は……。

蜷川幸雄が2004年初頭に挑んだ、シェイクスピア戯曲中、最も凄惨と言われる作品。古代ローマを舞台に、ローマ人、ゴート族、ムーア人など民族入り乱れての報復合戦を描く。舞台は真っ白。中央にそびえるローマの象徴・牝狼の像もひたすら厳か。中で流されるおびただしい血は緋色の糸、転がる生首、死体は透明プラスチック製で、むごいはずの情景が美しくさえ見えてくる。劇中、黒い肌を差別されるムーア人エアロンが「(白は)裏切りの色だ。赤くなるばかりにこっそりやったことも、胸の奥の秘密もバレちまう」と絶叫するが、蜷川が選んだ白の世界では、赤い血や黒い肌が発する混沌、活力、尊さ等々さまざまな意味や、人間の愛憎、欲望、狡猾さ、嘆き……幾多の感情の陰影がくっきりと際だつ。主人公のローマ帝国武将タイタス役・吉田鋼太郎のしなる鞭の如く一撃必勝な表現力や、ゴート族タモーラ役・麻実れいの誇り高い女王ぶり、ラストシーンの胸を突く演出など、俳優の生のエネルギーが強烈であるほど、観る者の心は激しく揺さぶられる。登場人物が殺戮に向かう姿が、9.11以降の不穏な世界情勢とも重なると、初演では話題を呼んだ。再演では、エアロンに『間違いの喜劇』でも主役を演じる小栗旬がキャスティングされ、蜷川シェイクスピアづく若手俳優として期待が集まる。強力タッグで6月には、英国で行われるシェイクスピアの祭典・RSC主催「コンプリート・ワークス」に日本から唯一参戦する。

木俣冬

## STORY ストーリー

ローマの帝位継承権を争う、前皇帝の息子サターニナスとバシエイナス兄弟。そこにゴート族との戦いに勝利したタイタスが凱旋帰国する。多くの息子を戦いで失ったタイタスは、彼らを弔う為に、捕虜にしたゴート族女王タモーラの懇願を無視して、彼女の長男を生贄として切り刻んで燃やす。復讐劇はここから始まる。

タイタスは新しいローマ皇帝としてサターニナスを推薦する。サターニナスは感謝のしるしとして、タイタスの娘ラヴィニアを妃として迎えようとするが、

ラヴィニアはバシエイナスを愛しており、これを断る。怒ったタイタスは、見せしめに自分の末息子を一人殺してしまう。侮辱に憤怒したサターニナスはタモーラと結婚し、タイタスを追放する。

タモーラの口添えでサターニナスはタイタスを許すが、タモーラは心の中でタイタス一族への復讐心を燃やしていた。彼女は愛人のムーア人エアロンの策略で、自分の息子たちをそそのかし、森の中でバシエイナスを殺害。さらに息子たちは一緒にいたラヴィニアを強姦し、その後彼女の両腕と舌を切断する。狩りから帰る途中のタイタスの弟マーカスは、変わり果てた姿で森をさまようラヴィニアを発見し、その残酷な犯罪行為に憤り涙する。

タイタスの息子たちがバシエイナスの遺体を発見したところへ、タモーラとサターニナスが現れ、彼らがバシエイナスを殺害したと思い込む。タイタスの息子らは死刑宣告を受け、もう1人の息子ルーシアスは国外追放となる。タイタスは息子たちを救おうと、自分の片手を切り皇帝に献上するが、その手は息子2人の生首とともにつき返される。更にラヴィニアを陵辱した犯人を知り、タイタスはタモーラへの復讐を誓う。

タモーラは、エアロンとの間にできた黒い肌の男児を産むが、彼との関係がサターニナスに知られることを恐れて子どもを殺そうとする。エアロンは息子を連れ去るが、ローマに進軍していた、ルーシアスに捕まり、息子の命を救うために全ての悪事を白状する。

タモーラは2人の息子とともに変装してタイタス邸を訪ね、ルーシアスのローマ進撃を止めるよう説得させようとする。騙されたふりをするタイタスは、タモーラがサターニナスのもとに戻っている間に息子たちを殺す。タイタスはさらにその死体でパイを作り、その後タイタス邸にやって来たサターニナスとタモーラにパイを食べさせる。その食事の席でタイタスはラヴィニアを殺し、タモーラも殺害。妻を殺されたサターニナスはタイタスを殺し、父を殺されたルーシアスはサターニナスを殺す。こうしてルー

シアスは新しいローマ皇帝となり、悪の根源エアロンを生き埋めにして、この残酷な復讐劇の幕が下りる。

## CRITICISM 2004年公演劇評より

—— ニナガワの演出的なマジックが、「タイタス」の美しい血煙りの中に、普遍的な価値が失われていることを表面化させた。ニナガワは「タイタス・アンドロニカス」を新しく定義しなおした

(ジャパン・タイムズ紙)

—— 吉田鋼太郎のタイタスは爆発的なエネルギーを放射。麻実れいは母親の悲しみと怒りを大きな振幅で見せた

(朝日新聞)



©高嶋ちぐさ

英国ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー主催  
「シェイクスピア・フェスティバル」正式招待作品

## タイタス・アンドロニカス

【演出】蜷川幸雄 【作】W・シェイクスピア

【翻訳】松岡和子

4月21日(金)～5月7日(日) <20公演>

【会場】彩の国さいたま芸術劇場大ホール

【一般】(全席指定・税込)

S席 9,000円 A席 7,000円 B席 5,000円

(※未就学児の入場はご遠慮ください。)

【メンバーズ】

S席 8,100円 A席 6,300円 B席 4,500円

【出演】

タイタス・アンドロニカス

吉田鋼太郎

タモーラ

麻実れい

エアロン

小栗旬

ラヴィニア

真中瞳

マーカス・アンドロニカス

壤晴彦

サターニナス

鶴見辰吾 他

装置:中越 司

照明:原田 保

衣裳:小峰リリー

音響:井上正弘

ヘアメイク:武田千巻

音楽:笠松泰洋

演出助手:井上尊島

舞台監督:明石伸一